

県立高等学校教育の在り方に関する地区別懇談会 開催結果

1 実施時期

令和6年5月17日（金）～27日（月）の間（実施日は3実施状況参照）

2 目的及び懇談内容

[目的]

社会の変化や今後一層進むことが見込まれる生徒数の減少を踏まえた今後の県立高等学校教育の在り方に関する検討の参考とするため、県内各地区各界の方々から意見を聴取する。

[懇談内容]

- (1) 現行の高校再編計画の概要
- (2) 県立高校の現状と課題
- (3) 県立高等学校教育の在り方（中間まとめ）
- (4) 各地区の現状等

3 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数						
				地区 代表	県議会 議員	地区 校長等	検討会議 構成員	傍聴者 (報道)	事務局	地区計
盛岡 (盛岡①)	盛岡市、雫石町、葛巻町、 矢巾町	令和6年 5月27日	岩手県公会堂	20	10	11	2	6	15	64
盛岡 (盛岡②)	八幡平市、岩手町、滝沢 市、紫波町	令和6年 5月17日	岩手県水産会 館	19	10	5	2	4	15	55
中 部	花巻市、北上市、遠野市、 西和賀町	令和6年 5月23日	花巻市定住交 流センター	21	8	11	2	8	15	65
県 南	奥州市、金ケ崎町、平泉 町、一関市	令和6年 5月23日	奥州市役所江 刺総合支所	20	4	11	1	21	14	71
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、 住田町、釜石市、大槌町	令和6年 5月21日	三陸公民館	25	3	6	1	3	16	54
宮 古	宮古市、山田町、岩泉町、 田野畑村	令和6年 5月24日	宮古地区 合同庁舎	18	3	6	2	8	16	53
県 北 (県北①)	久慈市、洋野町、野田村、 善代村	令和6年 5月24日	久慈地区 合同庁舎	18	1	5	1	9	15	49
県 北 (県北②)	二戸市、一戸町、軽米町、 九戸村	令和6年 5月22日	軽米文化交 流センター	17	2	4	2	10	14	49
計				158	41	59	13	69	120	460
				460						

○各地区での主な意見、提言等

地区名	主な意見・提言等（項目のみ）
全地区共通	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や自治体との連携・協働 ・地域や地域産業を担う人材の育成 ・遠隔教育の拡充 ・地域の実態を考慮した高校、学科再編 ・通学支援 ・教育上特別な支援を要する生徒への対応
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> ・統廃合の公共交通機関への影響 ・公私立の定員比率 ・教育の機会の保障 ・教育の質の保証 ・専門高校の在り方 ・総合学科の在り方 ・義務教育との連携 ・コミュニティ・スクール ・いわて留学 ・魅力の情報発信 ・普通科改革
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営規則の見直し ・部活動による高校の魅力化 ・高校魅力化の総括 ・魅力の情報発信 ・義務教育との連携 ・リーダーシップの育成 ・総合学科の在り方 ・小規模校の在り方
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・併設型中高一貫教育校の設置 ・医学コース ・専門高校の在り方 ・小規模校の在り方 ・1学級定員の見直し ・特例校 ・いわて留学 ・県外生受入れの弾力化 ・高校魅力化の総括 ・魅力の情報発信 ・教育の機会の保障 ・教育の質の保証
県南	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型人材の育成 ・A I に対応する人材の育成 ・定時制、通信制高校の在り方 ・教育の機会の保障 ・県外生受入れの弾力化 ・公私立の定員比率 ・学科、教科横断的学び ・併設型中高一貫教育校の設置 ・特例校 ・高校の一定規模の確保
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> ・医学コース ・岩手独自の高校教育の在り方 ・専門高校の在り方 ・定時制高校の在り方 ・いわて留学 ・通学区域の見直し ・特例校 ・小規模校の在り方 ・1学級定員の見直し ・部活動による高校の魅力化 ・魅力の情報発信 ・個別最適な学びと協働的な学びの実現 ・教育の質の保証 ・教育の地域格差の是正 ・女性の意見を取り入れる
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の在り方 ・公私立の定員比率 ・教育の機会の保障 ・教育の質の保証 ・教育の地域格差の是正 ・専門高校の在り方 ・特別支援学校の整備 ・奨学金制度の在り方
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区割の見直し ・小規模校の在り方 ・遠隔教育の課題 ・A I の活用 ・総合学科の在り方 ・校舎制の在り方 ・教育の地域格差の是正
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の在り方 ・部活動による高校の魅力化 ・教育の機会の保障 ・教育の質の保証 ・教育の地域格差の是正 ・魅力の情報発信 ・いわて留学 ・特例校 ・専門高校の在り方 ・高校魅力化の総括 ・義務教育との連携 ・復興教育 ・コミュニティ・スクール ・ICT 教育の充実

地区別懇談会の記録

(主な意見等の要旨)

※ この資料は、地区別懇談会における主な意見について、「県立高等学校教育の在り方（中間まとめ）」の構成に沿って、検討項目毎に意見を整理したものです。

- 1 岩手の高等学校教育の基本的な考え方
- 2 県立高校の学びの在り方
 - (1) 高校の特色化・魅力化
 - (2) 普通高校
 - (3) 専門高校
 - (4) 総合学科高校
 - (5) 定時制・通信制高校
- 3 学びの環境整備（県立高校の配置の考え方）
 - (1) 学校規模
 - (2) 小規模校の在り方
 - (3) 地区割と学校配置
 - (4) 通学区域（学区）
 - (5) 通学に対する支援
- 4 高等学校教育の充実に向けた方策
 - (1) 遠隔教育・学校間連携
 - (2) 教育上特別な支援を必要とする生徒等への対応
 - (3) 普通科改革（「普通教育を主とする学科」の弾力化）
 - (4) 全日制高校への単位制導入
 - (5) 県政課題等に対応した人材育成の取組
 - (6) 中高一貫教育
- 5 その他

(注) 意見の後の () 内は発言者を記載したものである。

行政：市町村長等、産業：産業関係者、PTA：PTA関係者、教育：市町村教育委員会教育長等

1 岩手の高等学校教育の基本的な考え方

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校は地域の担い手の人材育成の役割が期待され、持続可能な地域づくりには欠かせない存在である。(行政) ・ 各家庭の経済事情等で、子どもが取り残されるような教育方針ではいけない。(産業) ・ 教育の機会の保障と質の保証を図り、生徒が進学したいと思えるように進めていただきたい。(PTA)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、岩手県としてIターン、Uターンを支援する場合、教育環境を整えることは非常に重要な要素である。(行政) ・ 今の高校生の学力は高いと感じるが、リーダーシップ育成が必要ではないか。(産業) ・ 地域を愛する心を育てるのは高校までの教育及び関わる周辺の大人の存在が重要である。(PTA) ・ 地元高校の活躍が地域住民にとって大きな喜びとなり、活気をもたらしている。(教育)
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口対策において高校の存在が大きな拠り所となっている。(行政) ・ 地域の魅力を探るカリキュラム等で、大学進学後も地域に戻り地域の活性化に貢献する人材の育成が必要である。(産業) ・ 今回の中間まとめと現行計画前に示された基本的方向性の違いは何なのか。(産業) ・ 生徒の選択肢を狭めない緩やかな取組みをお願いしたい。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会課題解決型の人材育成が重要である。(行政) ・ AI人工知能の時代に対応できる人材育成が重要である。(行政) ・ 高校の特色・魅力等を尊重しつつ、重要なことは教育の質を落とさないことである。(産業)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元にとって県立高校は不可欠な存在であり、地方創生や地域活性化の核になっている。(行政) ・ 少子化が全国より先駆けている岩手ならではの高校教育の在り方を検討する必要がある。(行政) ・ 社会貢献型ビジネスをつくりだす必要に迫られており、そのような人材を輩出できる高校教育が、今後の持続可能な社会へと繋がっていく。(産業) ・ 郷土を愛する気持ちは小学生から養うべきである。(産業) ・ 学力だけではなく、心を豊かにし、社会を切り開くことを大切にしていきたい。(産業) ・ 生徒のすぐれた才能を伸ばす教育が一層求められている。(教育)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期計画の結果をどのように分析しているか説明していただきたい。(行政) ・ 岩手県の地理的な条件を考慮し、教育の機会の保障と質の保証をしていただきたい。(行政) ・ 各分野での地域の振興を図る上でも高校は大事であり、高校がなくなり地域から離れると戻ってくるのが難しい状況になる。(産業) ・ 教員、教育環境、設備をしっかり整備して教育の質を保証していただきたい。(教育)
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> ・ しっかり生徒の学びの機会、学力の維持は確保していただきたい。(行政) ・ 地域に高校がなくなることは、その地域の衰退につながる恐れがある。(産業) ・ 生徒を主語にした教育環境の構築、地域や地域産業を担う人材の育成に向けた教育環境の構築を願う。(教育)
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の進路の保障をお願いしたい。(行政) ・ 地元企業や地元の産業について知る機会を、授業の中で増やしていただきたい。(産業) ・ 子どもの学力の保証が大切である。(PTA) ・ 市町村の人口減少の速度は、高校を存続させると緩やかになり、高校魅力化に取り組むとさらに緩やかになるというデータがある。(教育) ・ 復興教育や地元愛の育成は高校教育でも大切である。(教育)

2 県立高校の学びの在り方

(1) 高校の特色化・魅力化

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域との連携・協働を一層図ることで、地元に対する愛着が醸成されるものとする。(行政) ・ 探究学習の授業や成果発表は、非常に良い取組であり、社会人として、地域や企業全体で活躍できるベースが形づくられていく。(産業) ・ 各高校の魅力は、将来を実現するための学力を身につける事が基本になる。(PTA) ・ 魅力化とは、高校を魅力的にすることではなく、地域と一緒に学びを深めていくことにより、高校を含めた地域の魅力を高めることである。(教育) ・ 中学生からの各高校の違いがよくわからないという声が聞こえてくる。各校の魅力を発信してもらいたい。(教育)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再編を念頭に置くのではなく、高校の活性化を第一にしたものにしていただきたい。(教育) ・ 地域社会との結びつきを強くし、地域産業を学び、将来的な目標を具体的にすることが高校の特色化・魅力化に繋がるのではないかと。(産業)
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの地域の教育は、高校だけではなく、地域や自治体との協働が重要である。(行政) ・ 学校紹介シート、特色化・魅力化ビジョンをもっとわかりやすく、中学生に寄り添ったものにしていただきたい。(産業) ・ 新しい魅力より今ある高校の魅力を最大限に引き出すことが大事である。(PTA) ・ 地域産業を考慮した学科に再編すれば志願者を確保できるのではないかと。(PTA) ・ 魅力化の取組についての総括を記載するべきである。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通科、商業科及び工業科等で連携した学びも必要ではないかと。(産業) ・ 岩手の教育の良さが県外の方にも伝わる再編としていただきたい。(PTA)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーター等の専門的な人材の配置等について、積極的な配置をお願いしたい。(行政) ・ 特色あるコースの設置について、県は柔軟な姿勢で支援していただきたい。(行政) ・ 魅力ある高校をどう創造していくか、地域社会とどう歩んでいくのか、地域に対するミッションとは何かを明確化することが基本的な考えに資するのではないかと。(産業) ・ 地域と協力し、特色・魅力ある選ばれる高校になっていただきたい。(PTA)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の高校へ進学させるには、中学校前の段階から地域の魅力を伝えていく必要がある。(PTA) ・ 中学校と高校、地域と高校がどのように連携できるか広い視点を持っていただきたい。(教育)
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統廃合を前提とするのではなく、地域の実情を考えながら、丁寧に計画を進めていただきたい。(行政) ・ AIなどの活用も考慮しながら計画を進めていただきたい。(産業) ・ 高校においては、地域の特色を生かしたカリキュラムを作成し、地域と連携した学校づくりが必要である。(PTA)
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立高校のよいところは県立高校も取り入れるべきである。(行政) ・ 企業としても協力したいと考えており、企業を活用していただきたい。(産業) ・ 子どもの進路を実現できる学校になっていただきたい。(PTA) ・ 高校は、中学校から進学して環境が変化しても、安心して教育を受けられる場であることが大切である。(PTA) ・ 高校魅力化の努力の成果が総括されずに中間まとめを提出するのは、これまでの高校の取組を反故にするものではないかと。(教育) ・ 自治体がICTを整備しても教員が使えないと意味がないので、教員のデジタルスキルを確保していただきたい。(行政)

(2) 普通高校

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校では早くから進路の専門性を決められず、普通科を選択する傾向がある。(PTA)
盛岡 (盛岡②)	—
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通高校については、私立高校が大学進学に特化したクラスを作り志願者を増やしているのに対して、公立高校の進学校がそうならない理由を考えていただきたい。(産業) ・ 普通科をどのように魅力化するかを考えていただきたい。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからの社会の中で、「食」というテーマは大事な観点であるので、農業科だけでなく、普通科等の中でも「食」や「農業」に触れていただきたい。(産業)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通高校においても、民間事業者と連携する機会を増やしていただきたい。(行政) ・ 釜石市にも難関大学等への進学率の高い高校を設置していただきたい。(行政) ・ 普通科は特化した教育を推進するべきである。(産業)
宮古	—
県北 (県北①)	—
県北 (県北②)	—

(3) 専門高校

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門高校には、遠隔地からでも目的を持って高校を選択する魅力ある教育を進めていただきたい。(産業)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業技術短期大学校などとスムーズに連携できる建築設備系の学科は、今後重要である。(産業) ・ 産業界が実際にどのような生徒を育成して欲しいと考えているか、県教委は理解する必要があるのではないか。(PTA)
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門高校、とくに工業に対する記述について課題や解決策等が抽象的である。(行政) ・ 農業の現場の話聞き、魅力を伝える時間を学びの中に取り入れていただきたい。(産業)
県南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業高校は、先進的な技術に触れる機会や企業と連携した取組等を進めていただきたい。(産業)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門高校について、その地域のニーズを高校教育に反映させ、高校を卒業して即戦力となる人材を育成していただきたい。(行政) ・ 農業系の高校・学科を全て全寮制にし、各地域を交流して学ぶことにより、幅広く学ぶことができるのではないか。(産業) ・ 専門高校の広域再編については、地元の企業に必要とされる人材を育てるべきである。(教育)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門性を追求するのであれば、農業なら農業高校、工業なら工業高校として維持していただきたい。(産業) ・ 資格取得や専門的な知識、技術を得るために深く勉強できる学科や最先端技術に対応した専門教育を考えていただきたい。(産業)
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近年、県内各地の工業高校の志願者数が減少し、建築に関わる担い手不足が懸念される。(産業)
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業等の専門高校において、開講できる科目が制限されることは避けていただきたい。(教育)

(4) 総合学科高校

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	・ 農業系列を設置している総合学科高校への進学率が減少し、再編は避けられない。(産業)
盛岡 (盛岡②)	・ 総合学科高校について系列の見直し等を含む在り方について再検証が必要なのではないか。(教育)
中部	—
県南	—
沿岸南部	—
宮古	—
県北 (県北①)	・ 中学時代に自分の進路を決めるのが難しい生徒にとって、総合学科高校のカリキュラムはいいのではないか。(産業)
県北 (県北②)	—

(5) 定時制・通信制高校

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	—
盛岡 (盛岡②)	—
中部	—
県南	・ 定時制と通信制を組み合わせたフレックスハイスクールが必要になる。(行政)
沿岸南部	・ 定時制高校は、不登校等の生徒の受け皿になる側面もあり、生徒の学び直しの場としても在り方を検討していただきたい。(教育)
宮古	—
県北 (県北①)	—
県北 (県北②)	—

3 学びの環境整備（県立高校の配置の考え方）

(1) 学校規模

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> 進路の選択肢を閉ざさぬよう、1学級校の在り方について柔軟な対応が大切である。(行政) ある程度の規模感の学校が必要であることは理解した。(PTA)
盛岡 (盛岡②)	—
中部	<ul style="list-style-type: none"> 特例校について、書き手と読み手で解釈が異なることが今までもあった。(産業) 生徒は多様化しており、学級数の適正規模だけにとらわれず細かな手だてが必要である。(教育) 入学者数が2年連続で20人以下となった場合には原則、募集停止という考え方を柔軟にするべきではないか。(教育) 岩手県の公立高校がすべて小規模校になるという危機感がある。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が本当にやりたいことができる環境を作るためには、高校の再編を進め、一定規模を確保することも必要である。(PTA) 学校規模の維持を目的にした再編は、将来的には限界が来るのではないか。(PTA) 1学級校が増える可能性がある中、特例校や校舎制の考え方を示していくことが学校や保護者に対する説明責任なのではないか。(教育)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数だけで高校を再編するのではなく、地域の実情を考慮していただきたい。(産業) 少子化は避けては通れないが、生徒数だけで統合していただきたくない。(PTA) 気仙地区の適正規模を考えると、学級減は避けては通れないのではないか。(教育) 特例校の条件を、人口の少ない町村を対象とする等の柔軟な対応をしていただきたい。(教育) 中学生が学習に向かうきっかけを作るためにも定員の適正化を検討していただきたい。(教育)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> 入学者数が2年連続で20人以下となった場合には原則、募集停止ということだが、県土が広く通学に困難を生じる場合がある点を配慮していただきたい。(行政)
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> 再編計画を進める際に、地域の実情や地域産業などを考慮して丁寧に計画を進めていただきたい。(行政) 少子化が進む中での高校再編であるが、地域によって実情が異なる。(教育)
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> 村づくりに学校は必要であり、地域の取組にも理解をお願いしたい。(行政) 特区扱いにして、高校を減らさないことを検討していただきたい。(産業)

(2) 小規模校の在り方

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> 小規模の高校だが、町の発展のために大きな意義を持ち、通級指導や探究活動などにも取り組んでいる。(教育)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校なりの特色を打ち出す方法もあるのではないか。(産業) 農業、工業等科目を地方の小規模高校普通科でも学べる環境の整備を期待する。(産業) 地域の小規模校は、個別最適な学びの環境として最適であり、一定数の需要がある。(教育)
中部	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校の現状分析ができておらず、単に少子化に沿って学級減をする印象を受ける。(産業) 小規模校は、小さな集団で学びたいという生徒にとって重要な役割を果たしている。(行政) 中学生に対するアンケートによると中学生の小規模校への進学希望者が相当数おり、全国的な移住の動きからも、小規模校において生徒の増加を望める状況にあるのではないか。(行政) 小規模校同士の協力、連携を促す必要がある。県が主催して検討会を実施してもらいたい。(産業) 小規模校について、地域が相当支援しているが、県が主体的に学校の充実を図ることが大事ではないか。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> DXハイスクールの推進については、小規模校にとってより重要であると考えている。(教育)

沿岸南部	—
宮古	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校という表現に納得できない部分もあるが、そのような学校でも地域の中でしっかり学び、地域貢献をしている。(教育) 小規模校であっても質を高め、人数が必要な場合は学校間連携をするなどの工夫ができるのではないかと。(行政)
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校だからこそできることに注目する発想があってもいいのではないかと。(行政) 小規模校や統合校は維持管理費も考慮した計画を望む。(産業)
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> 人数が少ないということは、一人ひとりに手厚い教育を行えるということでもある。(産業) 小規模校が連携する等して、子どもの選択肢を狭めないようにしていただきたい。(PTA) 生徒も保護者も大規模高校を必ずしも希望していないとアンケートの結果から読み取ることができるので、小規模校の良さを生かすことを考えていただきたい。(教育)

(3) 地区割と学校配置

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸地区において、過去の統廃合により公共交通機関の利用者が激減する影響が出ていることを考慮の一端に入れていただきたい。(行政) 高校再編の際には、各専門高校の学科の専門性を維持しながら、広い地域での学校の再編が必要である。(PTA)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> 各高校を学級減、再編する場合は、志願者数だけで判断せず、地域の実情を踏まえ丁寧に進めていただきたい。(行政)
中部	<ul style="list-style-type: none"> 効率化と広域化は必要なことである。(産業) 登下校に時間が掛かる分、地元の生徒よりも学習や部活動に時間的格差が生じることを考慮していただきたい。(PTA) 交通網の発達を考慮するとあるが、バス路線が廃止される中で、子どもたちの通学手段が確保できるか疑問である。(教育) 地区割を広域化することには精査が必要ではないかと。(教育) 今回の地区割で遠野市は釜石・遠野ブロックから中部地区になり、通学区域は釜石・気仙学区であることについて説明していただきたい。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学びたい専門的な高校が地区内にあるのが大事なことと考える。(行政) 生徒数が減少している状況から高校の再編は必要だが、生徒、保護者の時間的、体力的負担も考慮した高校再編としていただきたい。(教育) JRについては、昔に比べて本数が少ないので、電車の時間が合わない場合は保護者の送迎が必要になる。(教育)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> 高校を選択するとき、進路目標や部活動等の他、通学に掛かる費用や時間も重要である。(PTA) 教員の質の担保ができないのであれば高校を減らすのもやむを得ない。(PTA) 沿岸南部地区から地区外への進学者数が、6地区の中で最も少ない要因は、専門学科のすべてが地元にあることだと考えられる。(教育) 校舎制の導入等で現在高校のある市町村には高校を存続させていただきたい。(教育) 居住地によって教育の差が生まれにくいような教育環境を整備することを再編計画の中で打ち出していただきたい。(教育)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部と、内陸部の教育の格差が顕在化しているのではないかと。(行政) 高校再編において各地区内で希望に応じた進路を選択できるような高校配置をしていただきたい。(産業) 管内には、普通高校、専門高校がある他、定時制や通信制高校があり、高校を選択する幅が広がり、将来を見据えた学習ができる状況にあり、大変ありがたい。(PTA) より広域での再編について、生徒や家庭の負担を忘れずに進めていただきたい。(教育)

県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> 学校数の削減ありきではなく、地域の実情を考慮して慎重に協議していく必要がある。(行政) 農業や水産業も含めて学びの機会の確保を願う。(産業) 校舎制にする場合、生徒間の交流などの機会の確保を願う。(産業) 往復3時間の通学時間を考えると、地元には高校があることが望ましい。(PTA) 9ブロックを6地区に広域化することは、5つの柱をどこまで実現できるか疑問が残る。(教育)
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> 地域による教育の格差はあってはならない。(行政) 地元には高校がなくなれば、保護者の負担が増えるので、今ある学校を残すことを考えるべきである。(産業)

(4) 通学区域 (学区)

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	—
盛岡 (盛岡②)	—
中部	<ul style="list-style-type: none"> 国の二地域居住の考え方を踏まえて、県の通学区域等の考え方をまとめるべきである。(行政) 県外からの進学を認める、或いは容易にする制度を整備し、県外に周知してはどうか。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県も含めた広域での志願者確保も検討する必要があるのではないか。(行政)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> 通学区域について市町村を越えた普通科の隣接協定などを考えていただきたい。(教育)
宮古	—
県北 (県北①)	—
県北 (県北②)	—

(5) 通学に対する支援

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> 通学距離が長くなる場合は、通学支援や遠隔授業と対面授業を併用し対応する必要がある。(産業) 通学支援について、コンパクトシティの推進などの町づくりと一緒に考えていかなければならない。(PTA)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> 通学困難が理由で選択の幅が狭くなっている状況は残念に思う。(行政) 全国に先駆けて寮の整備、通学支援に取り組んでいただきたい。(PTA)
中部	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対して通学費等の経済的支援をするべきではないか。(PTA)
県南	<ul style="list-style-type: none"> 通学支援等のほか、費用負担を伴わない連携の形も検討していただきたい。(行政)
沿岸南部	—
宮古	—
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> 統廃合を進める際には、生徒の通学支援の方法などにも配慮する必要がある。(行政) 生徒たちの通学時の安全面にも配慮していただきたい。(産業)
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> 通学支援は、県が主体となって、過度に町村に頼らないでいただきたい。(教育)

4 高等学校教育の充実に向けた方策

(1) 遠隔教育・学校間連携

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	—
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔教育で専門高校と連携すれば小規模普通科高校でも専門的な国家資格を受験可能になるのではないかと。(産業) 高校の空き教室を活用し、大学等との連携や支援学校の併設もできるのではないかと。(教育) 義務教育と高校では財源が異なるが、体育施設等を共用できるようにするなどの小中高連携も視野に入れたビジョンがあってもいいのではないかと。(教育)
中部	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔教育を進めて、病気になった生徒が入院中でも在籍している高校の授業が受けられる体制を整えていただきたい。(PTA)
県南	<ul style="list-style-type: none"> 広域での通学をなくすための最先端の遠隔教育の導入が必要となってくる。(行政) 校舎制や遠隔教育を取り入れた新しい再編の形が今後必要になると考えている。(教育)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> 教員が配置できなくても学校間での遠隔授業を受けられる体制を構築していただきたい。(教育)
宮古	—
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔教育での学習にも利点はあるが、他者とのコミュニケーションの面で課題もあり、学校間連携なども視野に入れていただきたい。(産業) 遠隔教育等を活用して、小規模であっても地元で高校を存続させることが、地域の保護者の経済面を考えても必要ではないかと。(PTA)
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> I C Tの活用や遠隔授業の導入により教育の質を確保していただきたい。(産業) 近隣の高校と連携する、岩手独自のモデルを考えていただきたい。(産業) 学校の教育の質が高ければ、生徒は地元に残るので、遠隔教育等で質の高い教育を実現していただきたい。(PTA) 教師と生徒の授業の基本は対面授業という考えであり、遠隔授業で信頼関係が築けるのか疑問である。(PTA)

(2) 教育上特別な支援を必要とする生徒等への対応

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級に見られる個に応じた指導を取り入れていただきたい。(教育) 教育上特別な支援を必要とする生徒、不登校について、どう対応していくか鑑み、再編を進めることが必要である。(教育)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> 外国人労働者の子どもたちの学びの場を確保することも必要な視点ではないかと。(産業) 不登校の増加している原因を分析しているのか教えていただきたい。(PTA) 教育上特別な支援を必要とする生徒には、小規模校ならではのきめ細やかな指導が適する場面も多いのではないかと。(教育)
中部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数が減少しているにもかかわらず、不登校は減っておらず、その解決を小規模校が担っている。(産業) 不登校や教育上特別な支援を必要とする生徒は、学校の選択肢が限られる中で、私立の通信制に進学している生徒が多く、小規模校には、そのような生徒を受け入れるセーフティーネットの役割がある。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> 不登校が増加している中、I C Tを活用した遠隔授業やスクーリングをすべての高校が取り入れ、生徒を支援する体制づくりが必要なのではないかと。(教育)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> 様々な背景をもつ生徒や教育上特別な支援を必要とする生徒のために、インクルーシブ教育環境の構築が必要である。(教育)

宮古	<ul style="list-style-type: none"> 教育上特別な支援を必要とする生徒は年々増え、普通高校でも増えている。(教育) 高校と特別支援学校との連携について、二戸市で特別支援学校が旧福岡工業高校敷地内に整備されるとのことで、宮古地区でもニーズが高まっており、宮古恵風支援学校の環境整備について配慮いただきたい。(教育)
県北 (県北①)	<ul style="list-style-type: none"> 教育上特別な支援を必要とする生徒も増えている中、インクルーシブ教育の視点も大事に計画を進めていただきたい。(教育)
県北 (県北②)	—

(3) 普通科改革（「普通教育を主とする学科」の弾力化）

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> 普通科のさらなる特色化、普通科改革のように、新たな学科や新コースの設置等、各高校で取り組んでいただきたい。(教育)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> 県立高校に普通科は多いが、プラスアルファの学びを創出できる環境を望む。(教育)
中部	—
県南	<ul style="list-style-type: none"> 普通科については、大槌高校の例を参考にしながら、それぞれの学校の特色を生かした学科の Networking に変更していくことも必要ではないか。(教育)
沿岸南部	—
宮古	—
県北 (県北①)	—
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> 魅力化は、地域課題解決や探究学習だけでなく、普通科改革につながるはずである。(教育)

(4) 全日制高校への単位制導入

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	—
盛岡 (盛岡②)	—
中部	—
県南	—
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> 単位制で遠隔授業をするのであれば進路に合わせ科目を選択し、授業の空いた時間は企業訪問や部活動など、自分たちの時間を自由に使える教育であれば、広い視野をもった生徒が育つのではないか。(PTA)
宮古	—
県北 (県北①)	—
県北 (県北②)	—

(5) 県政課題等に対応した人材育成の取組

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	—
盛岡 (盛岡②)	—
中部	<ul style="list-style-type: none"> 医学コースは、医学に限らずサイエンス全般についての学びを考えていただきたい。(行政) 私立高校では進学コースを設けており、県立高校においても医学コース等を設置することでレベルアップするのではないか。(産業) 高校生が、地元の医療に貢献する意識を高めるためにもコースを設置していただきたい。(PTA)
県南	—
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> 医者が盛岡に偏在しており、気仙地区に医学コースを設置していただきたい。(行政) 医学コースを沿岸もしくは県北に少なくとも一つ設置していただきたい。(行政) 小中学校から優秀な児童生徒を医師養成する制度を作ったらいいのではないか。(産業) 沿岸に医学コースを設置できればいいが、教員の質の担保の問題がある。(PTA)
宮古	—
県北 (県北①)	—
県北 (県北②)	—

(6) 中高一貫教育

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	—
盛岡 (盛岡②)	—
中部	<ul style="list-style-type: none"> 地域の不公平感をなくし、他県から移住してきた家庭に定住してもらうためにも、併設型中高一貫教育校を他地域に設置することに触れていただきたい。(行政) 併設型中高一貫教育については成果と捉えており、内進生の育成や近隣の中学校等への影響もあるが、積極的に拡大すべきである。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫校については、増やした方がいい。(PTA) 中高一貫校については、地元小学校の学力上位層やリーダー性のある生徒が附属中学校に進学する傾向にあるため、現場としては大変な部分もあるが、リーダーとなる生徒を育てながら活動している。(教育)
沿岸南部	—
宮古	—
県北 (県北①)	—
県北 (県北②)	—

5 その他

地区名	主な意見等
盛岡 (盛岡①)	<ul style="list-style-type: none"> ・ くずまき山村留学は、他方から生徒を呼ぶだけが目的ではなく、移住定住に繋がることなどの新たな価値を地元の生徒たちが感じることも目的の1つである。(教育) ・ 志願者が少なくなったからといって、1学級校にならないように検討していただきたい。(PTA)
盛岡 (盛岡②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県教委の管理運営規則は、全国の魅力化プロジェクトの成果と相反するものになっているのではないか。(行政) ・ 私立高校との募集の調整の検討も必要だと考える (行政)
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外からの視点で地域の特色を発見するという点でも、いわて留学の仕組みは重要である。(産業) ・ いわて留学は教育効果があるとの認識だが、中間まとめに記載がないのは残念である。(教育) ・ 1学級当たりの生徒数が高校は40人のままでいいのか疑問である。(教育) ・ 1学級当たりの生徒数を地域によって柔軟にすることが、生徒にとって公平で、高校も魅力化を進めやすいのではないか。(教育)
県南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立の高校については生徒数が減っていない現状についても、考えていく必要があるのではないか。(産業)
沿岸南部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間まとめにいわて留学について明記いただきたい。(行政) ・ 学級数により教員の配置数が決まる制度について検討が必要である。(教育) ・ 懇談会の出席者に女性が少ないので、地域からの女性の流出を防ぐためにも、女性の意見を聞くべきである。(産業)
宮古	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立高校に進学する生徒の割合が増えている点も踏まえて検討していく必要がある。(行政) ・ 経済的な支援が必要な家庭への仕組みづくりを考えていただきたい。(産業) ・ 奨学金制度の在り方についても検討していただきたい。(教育)
県北 (県北①)	—
県北 (県北②)	<ul style="list-style-type: none"> ・ いわて留学を進めており、入学者が増えている。(行政) ・ 地域みらい留学について、他県では担当を置き県主導で行っている。(教育) ・ 海外の生徒も含めて志願者の確保を考えてもいいのではないか。(教育)

